

第 3 回 館 山 市 議 会 定 例 会 会 議 録

(第 5 号)

1 平成8年9月27日(金曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 25名

1 番 辻田 実
3 番 三上 英男
5 番 忍足 利彦
7 番 斉藤 実
9 番 島田 保
11 番 秋山 光章
13 番 脇田 安保
15 番 山崎 雅己
17 番 岩村 勝弘
19 番 川名 正二
21 番 山中金治郎
23 番 石井 昌治
25 番 飯田 義男

2 番 本橋 亮一
4 番 小幡 一宏
6 番 鈴木 順子
8 番 増田 基彦
10 番 宮沢 治海
12 番 植木 馨
14 番 永井 龍平
16 番 鈴木 忠夫
18 番 日下 君敏
20 番 神田 守隆
22 番 榎本 春光
24 番 福原 勤

1 欠席議員 なし

1 出席説明員

市長 庄司 厚
収入役 永野 修
総務部長 鈴木 完二
経済環境部長 小沼 晃
水道課長 谷貝 実
教育委員会 会長 高橋 博夫
選挙管理委員会 局長 大山 了一
監事 田村 哲也

助役 小幡 清之
企画部長 寺嶋 清
市民福祉部長 渡辺 富雄
建設部長 鈴木 信一
教育委員会 会長 藤田 尚正
選挙管理委員会 委員長職務代理者 金子 光男
監査委員 山田 教和
農業委員会 会長 斉藤 明

1 出席事務局職員

事務局 長 兵藤 恭一

事務局 長 補 佐 鈴木 哲

書 記 四ノ宮 朗

書 記 島本 一樹

書 記 鈴木 達也

書 記 松浮 郁夏

1 議事日程（第5号）

平成8年9月27日午前10時開議

- | | | | |
|-------|---|--------|---------------------------------------|
| 日程第 1 | { | 議案第57号 | 館山市行政手続条例の制定について |
| | | 議案第58号 | 工事請負契約の締結について |
| | | 議案第59号 | 調停について |
| | | 議案第60号 | 調停について |
| | | 議案第61号 | 調停について |
| | | 議案第62号 | 調停について |
| | | 議案第63号 | 調停について |
| | | 議案第64号 | 調停について |
| | | 議案第65号 | 和解について |
| | | 議案第67号 | 平成8年度館山市一般会計補正予算（第2号） |
| 日程第 2 | { | 議案第66号 | 館山市母子家庭・父子家庭等医療費等の助成
に関する条例の制定について |
| 日程第 3 | { | 議案第68号 | 平成8年度館山市下水道事業特別会計補正予
算（第2号） |
| | | 議案第69号 | 平成8年度館山市水道事業特別会計補正予算
（第1号） |
| 日程第 4 | { | 請願第 6号 | 耐震診断への助成制度の創設を求める請願書 |
| | | 請願第 9号 | 「義務教育費の国庫負担制度の堅持に関する
意見書」採択に関する請願書 |
| | | 請願第10号 | 「教育予算の増額に関する意見書」採択に関
する請願書 |

請願第 11 号 「介護保険法案」の国会上程に反対し、国民
と自治体の意見尊重を図る意見書の提出を求
める請願書

日程第 5 継続審査について

- | | | | |
|-------|---|---------|---|
| 日程第 6 | { | 認定第 1 号 | 平成 7 年度館山市一般会計歳入歳出決算の認
定について |
| | | 認定第 2 号 | 平成 7 年度館山市国民健康保険特別会計歳入
歳出決算の認定について |
| | | 認定第 3 号 | 平成 7 年度館山市老人保健特別会計歳入歳出
決算の認定について |
| | | 認定第 4 号 | 平成 7 年度館山市ユースホステル特別会計歳
入歳出決算の認定について |
| | | 認定第 5 号 | 平成 7 年度館山市学童災害共済事業特別会計
歳入歳出決算の認定について |
| | | 認定第 6 号 | 平成 7 年度館山市下水道事業特別会計歳入歳
出決算の認定について |
| | | 認定第 7 号 | 平成 7 年度館山市水道事業特別会計収支決算
の認定について |
| | | | |

日程第 7 議案第 70 号 館山市長、助役及び収入役の給料月額の特例
に関する条例の制定について

日程第 8 議案第 71 号 館山市名誉市民の称号を贈ることについて

日程第 9 議案第 72 号 人権擁護委員候補者の推薦について

日程第 10 議案第 73 号 館山市固定資産評価審査委員会委員の選任に
ついて

日程第 11 議案第 74 号 館山市教育委員会委員の任命について

日程第 12	{	発議案第 5 号	新たな「食料・農業・農村基本法」の制定を 求める意見書について

〔 発議案第 6 号 道路財源確保に関する意見書について

日程第 13 発議案第 7 号 株購入問題に関する決議について

日程第 14 消費税率 5 % 引き上げに反対する意見書について

開 議 午前 10 時 15 分

◎議長（山中金治郎君） 本日の出席議員数 25 名、これより第 3 回市議会定例会第 5 日目の会議を開きます。

議案の配付

◎議長（山中金治郎君） 議案を配付いたします。

配付漏れはありませんか。 — 配付漏れなしと認めます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

議案の上程

◎議長（山中金治郎君） 日程第 1、議案第 57 号乃至議案第 65 号及び議案第 67 号の各議案を一括して議題といたします。

総務委員会委員長報告

◎議長（山中金治郎君） ただいま議題となりました各議案は、9 月 13 日の本会議において総務委員会に付託されたものであります。

よって、これより総務委員会における審査の経過並びに結果について委員長の報告を求めます。

総務委員会委員長 日下君敏さん。御登壇願います。

（総務委員会委員長 日下君敏君登壇）

◎総務委員会委員長（日下君敏君） ただいま議題となりました議案第 57 号乃至議案第 65 号及び議案第 67 号に係る総務委員会における審査の経過並びに結果について御報告申し上げます。

去る 9 月 13 日の本会議におきまして本委員会に付託されました各議案につきまして、19 日委員会を招集し、審査を行いました。

以下、その質疑応答などの主なものについて申し上げます。

まず、議案第57号館山市行政手続条例の制定についてでございますけれども、この条例は全国市長会が作成いたしました標準条例どおりかという質疑に対しまして、市当局は独自の規定を設けてあるという説明がありました。その規定の第1は、聴聞をいたすわけでありましてけれども、聴聞に際しまして不利益処分の原因となる事実を証する資料等の写しの交付が請求できるということ。第2に、公益を著しく害する場合には行政指導を継続できる旨を明記いたしたということ。第3点は、公益上必要な場合には行政指導ができる旨を明記いたしたこと。そして、第4点目は、申請類似行為というのがありますけれども、その申請類似行為につきまして申請と同様に審査基準並びに標準処理機関を定めて公にいたすという4点を設けたという説明があったわけでございます。

さらに、行政指導の考え方に対しまして問いただきましたところ、本条例は一般的な規定でありまして、具体的な事例は個々の条例にゆだねなければならないが、その本条例はこれまで行政指導が市民の利害調整に果たしてきたという役割をおもんばかってつくった内容になってるということでございます。また、公正の確保と透明性の向上がこの条例の目的であり、市民にわかりやすく行政の基準が定められることが望ましいと考えているとの説明がございました。

次に、議案第58号工事請負契約の締結でございます。この金額が2億3,896万円でございます。コミュニティセンターの調整池の上に組み立て駐車場を建てるということでございますが、この組み立て駐車場の構造、耐用年数及び業者選定の方法等について説明を求めましたところ、この構造は鉄骨づくりで、耐用年数は30年、また業者の選定に当たっては、これが建設省認定品のプレハブ式駐車場でありますので、この建築業者全社を対象に指名競争入札を実施いたしましたという説明がございました。

次に、議案第59号乃至議案第64号調定並びに議案第65号和解についてでございます。この件は、1件当たり和解金が250万円ということで決するわけでありましてけれども、この和解金250万円の根拠について質問をいたしました

たところ、この土地等については既に関済済みであるということを前提にいたして、昭和23年当時の相手方をそれぞれ1件当たりということで交渉を進めた。そして、和解金 250万円については交渉の結果として決定されたものであるとの答弁がございました。

さらに、市当局から今回のこの調停に当たっては当該土地が新たな土地利用計画により早期解決が必要であったための特殊な事例であるから、今後の前例とはしないという見解が示されたわけであります。

次に、議案第67号一般会計補正予算（第2号）についてであります。企画費中参与に対する報酬が計上されておりますが、参与の必要性をたしましたところ、参与は地方自治法に基づく専門委員であり、必要に応じ専門的な知識、経験を有する者を委嘱しているところである。今回は西口地区土地区画整理事業、上下水道及び道路問題等に関して1名、またウエルネスリゾートパーク計画に民間企業を誘導するための調整役として1名、計2名を委嘱しているという説明がありました。

また次に、保健衛生費中地域総合整備資金貸付金 4,000万円が計上されております。その内容について説明を求めましたところ、老人保健施設建設事業に対する貸付金であり、その場所は西岬でありまして、事業者は医療法人社団慶勝会——沼の赤門病院だそうでございますが、医療法人社団慶勝会である。目的としては、リハビリ、看護、介護の必要な寝たきり老人等の自立を支援しながら家庭復帰を図る施設である。この当該施設の利用の対象者といたしましては、利用基準によりまして入所してもよろしいし、また通ってきてもよろしいということの説明がございました。

採決の結果、付託を受けました議案第57号乃至議案第65号及び議案第67号については、全員一致をもっていずれも原案どおり可決すべきものと決しました。

以上御報告申し上げまして、総務委員会委員長報告を終わります。

◎議長（山中金治郎君） 以上で委員長の報告を終わります。

質 疑 応 答

◎議長（山中金治郎君） ただいまの委員長報告について御質疑ありませんか。 — 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

討 論

◎議長（山中金治郎君） これより討論を行います。

通告はありませんでした。討論はありませんか。 — 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（山中金治郎君） これより採決いたします。

採決は一括して行います。

各議案についての委員長報告は原案可決であります。

各議案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（山中金治郎君） 御異議なしと認めます。よって、各議案はいずれも原案どおり可決されました。

議案の上程

◎議長（山中金治郎君） 日程第2、議案第66号館山市母子家庭・父子家庭等医療費等の助成に関する条例の制定についてを議題といたします。

文教民生委員会委員長報告

◎議長（山中金治郎君） 本案は、9月13日の本会議において文教民生委員会に付託されたものであります。

よって、これより文教民生委員会における審査の経過並びに結果について委員長の報告を求めます。

文教民生委員会委員長宮沢治海さん。御登壇願います。

（文教民生委員会委員長宮沢治海君登壇）

◎文教民生委員会委員長（宮沢治海君） ただいま議題となりました議案第

66号に係る文教民生委員会における審査の経過並びに結果について御報告申し上げます。

去る9月13日の本会議におきまして本委員会に付託されました本議案につきまして、19日委員会を招集し、審査を行いました。

以下、その質疑応答等主なものについて申し上げます。

まず、議案第66号館山市母子家庭・父子家庭等医療費等の助成に関する条例の制定についてであります。まず受給対象者の総数について説明を求めたところ、今までの条例では428名、この条例により663名を見込んでおり、今後は多少増加傾向にあるとの説明がありました。

次に、所得制限について説明を求めたところ、通常の母子世帯の場合、所得金額が230万1,000円、扶養親族1人につき38万円を加算した額が制限額になるとの説明がありました。

さらに、用語の定義及び受給資格について説明を求めました。

採決の結果、付託を受けました議案第66号については、全員一致をもって原案どおり可決すべきものと決しました。

以上御報告申し上げます、文教民生委員会委員長報告を終わります。

◎議長（山中金治郎君） 以上で委員長の報告を終わります。

質 疑 応 答

◎議長（山中金治郎君） ただいまの委員長報告について御質疑ありませんか。— 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

討 論

◎議長（山中金治郎君） これより討論を行います。

通告はありませんでした。討論はありませんか。— 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（山中金治郎君） これより採決いたします。

本案についての委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎議長(山中金治郎君) 御異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決されました。

議案の上程

◎議長(山中金治郎君) 日程第3、議案第68号及び議案第69号の各議案を一括して議題といたします。

建設経済委員会委員長報告

◎議長(山中金治郎君) ただいま議題となりました各議案は、9月13日の本会議において建設経済委員会に付託されたものであります。

よって、これより建設経済委員会における審査の経過並びに結果につき、委員長の報告を求めます。

建設経済委員会委員長島田 保さん。御登壇願います。

(建設経済委員会委員長島田 保君登壇)

◎建設経済委員会委員長(島田 保君) ただいま議題となりました議案第68号及び議案第69号に係る建設経済委員会における審査の経過並びに結果について御報告申し上げます。

去る9月13日の本会議におきまして本委員会に付託されました各議案につきまして、18日委員会を招集し、審査を行いました。

以下、その質疑応答等主なものについて申し上げます。

まず、議案第68号平成8年度館山市下水道事業特別会計補正予算(第2号)についてであります。平成10年度の下水道の供用開始に対して今後の受益者の負担金について話し合い等行われているか説明を求めたところ、住民に対しては地元説明会等で説明している。受益者負担金については条例制定が必要であり、現在条例を制定すべく原案を作成し、下水道審議会に諮問した後3月議会において上程する予定であるとの説明がありました。

なお、住民の負担についてはさらに水洗トイレ等の改造費、宅内における排水設備費、下水道使用料などがあるとの説明がありました。

次に、議案第69号平成8年度館山市水道事業特別会計補正予算（第1号）についてであります。館野、九重地区は10月1日の通水開始に向けて現在の状況について説明を求めたところ、幹線配水管の洗浄は完了し、17日から試験通水を行い、メーターの設置を始めており、今後も各利用者の給水装置工事の竣工に合わせてメーターの設置をしていきたいとの説明がありました。

採決の結果、付託を受けました議案第68号及び議案第69号につきましては、全員一致をもちましていずれも原案どおり可決すべきものと決しました。

以上御報告申し上げまして、建設経済委員会委員長報告を終わります。

◎議長（山中金治郎君） 以上で委員長の報告を終わります。

質 疑 応 答

◎議長（山中金治郎君） ただいまの委員長報告について御質疑ありませんか。 — 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

討 論

◎議長（山中金治郎君） これより討論を行います。

通告はありませんでした。討論はありませんか。 — 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（山中金治郎君） これより採決いたします。

採決は分割して行います。

まず、議案第68号平成8年度館山市下水道事業特別会計補正予算（第2号）について採決いたします。

本案についての委員長の報告は原案可決であります。本案を委員長報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（山中金治郎君） 御異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決されました。

次いで、議案第69号平成8年度館山市水道事業特別会計補正予算（第1号）について起立により採決いたします。

本案についての委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに賛成の皆さんの起立を求めます。

（賛成者起立）

◎議長（山中金治郎君） 起立多数であります。よって、本案は可決されました。

請願書の上程

◎議長（山中金治郎君） 日程第4、請願第6号、請願第9号乃至請願第11号の各請願を一括して議題といたします。

文教民生委員会委員長報告

◎議長（山中金治郎君） ただいま議題となりました請願第6号は3月11日、請願第9号乃至請願第11号は9月13日の本会議において文教民生委員会に付託されたものであります。

よって、これより文教民生委員会における審査の概要につき、委員長の報告を求めます。

文教民生委員会委員長宮沢治海さん。御登壇願います。

（文教民生委員会委員長宮沢治海君登壇）

◎文教民生委員会委員長（宮沢治海君） ただいま議題となりました請願第6号、請願第9号乃至請願第11号に係る文教民生委員会における審査の概要について御報告申し上げます。

請願第6号耐震診断への助成制度の創設を求める請願書については、平成8年3月の本会議において本委員会に付託され、継続審査となっていたものであります。請願第9号「義務教育費の国庫負担制度の堅持に関する意見書」採択に関する請願書、請願第10号「教育予算の増額に関する意見書」採択に

関する請願書及び請願第11号「介護保険法案」国会上程に反対し、国民と自治体の意見尊重を図る意見書の提出を求める請願書については、去る9月13日の本会議におきまして本委員会に付託されたもので、19日招集された本委員会において審査を行いました。

請願第6号の審査に当たっては、個人の所有している建物についての耐震診断の助成は、現在千葉県下で4市程度実施している。本市においては、今年度より簡易耐震診断を無料で実施する予定であるとの説明がありました。

次に、請願第11号について、介護保険制度は高齢化社会に向けて基本的に必要なことであるが、今回の政府案は地方自治体に運営をゆだねる点等論議すべき問題点が多い。しかしながら、国会に提出することについて反対というのは市議会として適当ではないとの意見がありました。

採決の結果、付託を受けました請願第6号、請願第9号、請願第10号については全員一致により採択するもの、また請願第11号については賛成者がなく、採択しないものと決しました。

以上御報告申し上げまして、文教民生委員会委員長報告を終わります。

◎議長（山中金治郎君） 以上で委員長の報告を終わります。

質 疑 応 答

◎議長（山中金治郎君） ただいまの委員長の報告について御質疑ありませんか。 — 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

討 論

◎議長（山中金治郎君） これより討論を行います。

通告はありませんでした。討論はありませんか。 — 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（山中金治郎君） これより採決いたします。

採決は分割して行います。

まず、請願第6号、請願第9号及び請願第10号について一括して採決いたします。

各請願についての委員長の報告は採択するであります。

各請願を委員長の報告どおり採択することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎議長(山中金治郎君) 御異議なしと認めます。よって、各請願はいずれも採択することにいたしました。

次いで、請願第11号「介護保険法案」の国会上程に反対し、国民と自治体の意見尊重を図る意見書の提出を求める請願書について、起立により採決いたします。

本請願についての委員長の報告は採択しないであります。

本請願を委員長の報告どおり採択しないことに賛成の皆さんの起立を求めます。

(賛成者起立)

◎議長(山中金治郎君) 起立多数であります。よって、本請願は採択しないことに決しました。

日程の追加

◎議長(山中金治郎君) お諮りいたします。

ただいま発議案第9号耐震診断への助成制度創設に関する意見書について及び発議案第10号教育予算の確保及び義務教育費の国庫負担制度の堅持に関する意見書についてが提出されました。

この際、各議案を日程に追加し、議題といたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎議長(山中金治郎君) 御異議なしと認めます。よって、各議案を日程に追加し、議題とすることに決しました。

議案の上程

◎議長（山中金治郎君） 発議案第9号及び発議案第10号の各議案を一括して議題といたします。

議案の配付

◎議長（山中金治郎君） 議案を配付いたします。

（議案配付）

◎議長（山中金治郎君） 議案の配付漏れありませんか。 — 配付漏れなしと認めます。

議案の朗読は省略します。

議案の内容説明

◎議長（山中金治郎君） 議案の説明を求めます。

宮沢治海さん。

（10番議員宮沢治海君登壇）

◎10番（宮沢治海君） ただいま議題となりました発議案第9号耐震診断への助成制度創設に関する意見書及び発議案第10号教育予算の確保及び義務教育費の国庫負担制度の堅持に関する意見書について、提案理由を御説明申し上げます。

いずれもただいま採択するものと決しました請願書の趣旨を体しまして、関係機関に要望いたしたく、それぞれ6名の賛成者を得まして提出した次第であります。

満場の御賛同を賜りますようお願いいたしまして、提案理由の説明といたします。

◎議長（山中金治郎君） 説明は終わりました。

質疑応答

◎議長（山中金治郎君） これより質疑を行います。

御質疑ありませんか。 — 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

◎議長（山中金治郎君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（山中金治郎君） 御異議なしと認めます。よって、本案については委員会の付託を省略することに決しました。

討 論

◎議長（山中金治郎君） これより討論を行います。

討論はありませんか。—— 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（山中金治郎君） これより採決いたします。

採決は一括して行います。

各議案を原案どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（山中金治郎君） 御異議なしと認めます。よって、各議案は原案どおり可決されました。

継続審査について

◎議長（山中金治郎君） 日程第5、請願の継続審査についてお諮りいたします。

総務委員会に付託中の請願第8号消費税率引き上げ反対を求める請願書、文教民生委員会に付託中の請願第7号稲村城跡保存に関する請願書について、委員長から、会議規則第104条の規定により、閉会中の継続審査とされたいとの申し出がありました。各請願を閉会中の継続審査とすることに御異議あ

りませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（山中金治郎君） 御異議なしと認めます。よって、各請願は閉会中の継続審査とすることに決しました。

議長の報告

◎議長（山中金治郎君） なお、この際申し上げます。

各常任委員会における陳情審査結果が報告されております。お手元に配付の印刷書により御了承をお願いします。

議案の上程

◎議長（山中金治郎君） 日程第6、認定第1号乃至認定第8号、平成7年度館山市一般会計並びに特別会計決算を一括して議題といたします。

決算審査特別委員会委員長報告

◎議長（山中金治郎君） ただいま議題となりました各会計決算は、9月18日の本会議において特別委員会を設置し、付託されたものであります。

よって、これより決算審査特別委員会における審査の経過並びに結果について委員長の報告を求めます。

決算審査特別委員会委員長永井龍平さん。御登壇願います。

（決算審査特別委員会委員長永井龍平君登壇）

◎決算審査特別委員会委員長（永井龍平君） ただいま議題となりました認定第1号乃至認定第8号、平成7年度館山市一般会計並びに特別会計決算に係る決算審査特別委員会におきます審査の経過並びに結果について御報告申し上げます。

去る9月18日の本会議におきまして本委員会に付託されました各決算につきまして、20日委員会を招集し、慎重に審査を行いました。

以下、委員会におきます質疑応答等整理いたしまして、その概要を御報告申し上げます。

まず、一般会計歳出であります。第2款総務費であります。財産管理費内の予備費の充用の内容と年度当初において予算化できなかった理由について説明を求めたところ、バスの事故による修繕費、またそれに伴う代替バス3台の賃借料であり、工事請負費については市庁舎の暖房用ボイラーの故障により急遽取りかえ工事を行ったためのもので、いずれも予算計上時点には予見できなかったものであるとの回答がありました。

次に、安房郡市広域市町村圏事務組合総務費負担金について、増額の原因及び算出方法について説明を求めたところ、算出方法は均等割20%、人口割80%、増額については第2次基本計画の策定に伴い1人増員になったためとの説明がありました。

次に、第3款民生費であります。館山市福祉作業所運営委託料に関して入所者数及び作業内容について説明を求めたところ、現在16人であり、精薄者あるいは身障者に対し雇用に対する社会生活の適応を高めるため、マジックペンや贈答用のリボン等を製作しながら職業指導を行っているとの回答がありました。

また、館山市高齢者働く会の現在の会員数と平成7年度の作業実績について尋ねたところ、9月1日現在74名の会員が在籍し、平成7年度の就労延べ日数は3,398日であり、件数は727件である。件数の内訳は、一般家庭から229件、会社等から152件、館山市から346件である。作業内容としては、管理清掃、草刈り及び駅前駐輪場の整理等であるとの説明がありました。

委員から、今後高齢者の勤労意欲と作業内容についてより一層の向上を図られるよう意見がありました。

次に、第4款衛生費であります。合併処理浄化槽設置事業補助金について、単独浄化槽と合併浄化槽との設置の割合、公共下水道供用区域内の合併浄化槽の補助について説明を求めたところ、館山市全体の浄化槽の割合は46.4%であり、そのうち合併浄化槽は3.2%、単独浄化槽については43.2%の割合で、現在補助対象区域外としては第1期の公共下水道区域内、駅周辺の98ヘクタール及び生活排水処理施設の集水区域周辺の約91ヘクタールであるとの回答がありました。

次に、第5款労働費であります。勤労者団体補助金について補助金を出す目的と活動状況について説明を求めましたところ、安房地区労働者福祉協議会が行う勤労者の福祉及び文化活動の向上を図るための各種行事について助成したもののとの回答がありました。

次に、第6款農林水産業費であります。産業祭り委託料について、その目的及び内容と今後の方針について説明を求めましたところ、地場産業の育成、さらに市民との交流等を目的として実施しているところである。委託料については、産業祭り実行委員会に対するものであり、事業内容としては海産物、農産物による直販や催し物のコーナーをやっているとの回答がありました。

委員から、毎年実施している中でだんだん盛況になってきているようなので、限りある予算の中で今以上盛況かつ意義のある産業祭りにしてほしいとの要望がありました。

次に、第7款商工費であります。館山市観光行事補助金の内容及び内訳さらに今後の方針について説明を求めましたところ、館山観光祭り 700万円、南総里見祭り 360万円、フラワーフェスタ80万円となっている。今後市としても各実行委員会から提案される新しい企画等についてその効果等を検討し、観光振興に努めていきたいとの回答がありました。

委員から、夏場の観光客に対し魅力のあるイベント、また春先の行事に対しても観光客誘致を図ってほしいとの意見がありました。

次に、第8款土木費であります。館山港修築工事負担金の工事内容と進捗状況についての説明を求めましたところ、平成12年度までの県事業であり、現在館山港内魚市場の東側90メートルに関東大震災程度の地震に耐えられる耐震バースの建設を行っている。進捗状況は、現在砂をかき出し、鋼管くいを約30メートルから40メートルくらい打ち込んでいるとの回答がありました。

次に、第10款教育費であります。南房総フェスタ委託料の内訳、主な支出の説明を求めましたところ、舞台費が58万 2,000円、音響、照明施設が24万円、記念品11万 3,300円、そのほかベリンハム市よりフラメンコ舞踊団の旅費と各参加大学への報償費の支給をしたとの回答がありました。

さらに、フラメンコに対し、伊東市の観光協会が積極的に誘致をしている

ことについて指摘をしたところ、危機感を持っているが、伊東市は純然たる観光を目的としており、館山市の場合には教育委員会主管の文化行事として位置づけ、文化振興として対抗していくとの説明がありました。

次に、国民宿舎事業特別会計であります、鳩山荘の今後の経営と利用率の向上について説明を求めましたところ、館山市新行政改革大綱の国民宿舎経営合理化検討部会の中での今後の役割、機能、運営方法等多面にわたり検討しており、今後東京湾横断道路の開通等交通事情の変化による利用者の増加が考えられるが、現況を分析し、経営努力をしていきたいとの説明がありました。

次に、下水道事業特別会計について、平成10年度の供用開始に向けて現在の工事の進捗状況について説明を求めました。平成7年度末の幹線管渠につきましては31.6%、面整備管渠については20.2%、処理場用地については63.2%、処理場建設については35%、事業全体として約35%の進捗状況であるとの説明がありました。

次に、討論を行いました。このたび明らかになったNTT株購入問題はまだまだかつてない不祥事件であり、これほど市民の批判と怒りの強かったことはない。管理者としての義務に違反した3名の元収入役は重大な責を負わなければなりません。また、市職員においても、公金に対する厳粛な責任感や理念の欠如があったのではないか。この事件を契機として抜本的な行財政改革、市長以下全職員の公金に対する厳しい認識を再確認し、市政の上でどのように反映していくかを明らかにすべきである。平成9年度の予算編成に当たっては、本委員会での質疑、要望を十分勘案し、中長期的視野に立ち、市民に納得できる行財政の改革、市民サービスの向上を図るよう強く要望し、認定に賛成するとの意見がありました。

以上が質疑応答等の概要であります。

採決の結果、付託を受けました認定第1号乃至認定第8号の各会計決算については、全員一致をもちましてそれぞれ認定すべきものと決しました。

以上本特別委員会におけます審査の概要につきまして御報告申し上げます。決算審査特別委員会委員長の報告を終わります。

◎議長（山中金治郎君） 以上で委員長の報告を終わります。

質 疑 応 答

◎議長（山中金治郎君） ただいまの委員長の報告について御質疑ありませんか。 — 御質疑なしと認めます。質疑を終結いたします。

討 論

◎議長（山中金治郎君） これより討論を行います。

通告がありますので、発言を許します。

20番議員神田守隆さん。御登壇願います。

（20番議員神田守隆君登壇）

◎20番（神田守隆君） 認定の第1号平成7年度館山市一般会計歳入歳出決算に反対の討論をいたします。

元収入役らのN T T株購入により、館山市財政に4億余円の巨額の損害を与えた問題は、市民の館山市政に対する信頼を根本から覆すことになる極めて重大な問題であります。特に元収入役らによるN T T株購入及び保有の事実が昭和62年度の決算以来これまでの8年間にわたって虚偽の報告で隠べいされ続け、毎年いわばこの偽りを前提にした決算が行われ、この決算を市議会は認定し続けてきたということになります。本来市民の代表として市財政をチェックすべき議会がその役割を果たし得なかったわけで、元収入役らによって虚偽の報告がなされていたということは、決算認定の審議に当たって審議の前提そのものが本来の意味で成り立っていなかったということであり、ます。虚偽の報告でつくられた決算の審議に何の意味があるのでしょうか。元収入役らによるこの虚偽の報告は、議会の審議権そのものを否定する極めて悪質な違法犯罪行為であり、議会制民主主義に対する挑戦であります。こんな違法、犯罪行為が断罪されないとすれば、議会の存在意義そのものが崩壊しかねないという重大な問題を持つものであります。我が国の刑法においても、虚偽公文書作成は私文書偽造などに比べても特に重い刑罰が規定され、重大な犯罪行為とされているところであります。

市長においては、元収入役らを告発するなどいささかのあいまいさもなく、毅然とした断固たる措置をとるべきことを強く主張し、平成7年度館山市一般会計歳入歳出決算の認定に反対の討論といたします。

◎議長（山中金治郎君） 以上で神田守隆さんの討論を終わります。

以上で通告者による討論は終わりますが、通告してない議員で討論ありませんか。

辻田さん。

（1番議員辻田 実君登壇）

◎1番（辻田 実君） 通告をいたしませんでしたけれども、ただいま反対討論がございまして、非常にこの7年度の決算は注目されておる決算であり、非常に重要な決算になってるわけでございまして、私はそうした面におきましてやはり賛成者1人もないということにつきましては若干議会としての手抜きがあるんじゃないかというように思いまして、私は委員長報告に賛成する立場から討論をいたしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

まず、第1点は、非常に厳しい財政状況におきまして7年度の決算が終了いたしました点につきましては、その労をねぎらうところでございます。特に当初予算161億の予算に対しまして、決算額といたしましてはそれを15億2,200万上回る決算ができた点につきましては評価をいたしたいと思います。

なお、さらに繰越金を7億5,500万円を出してるわけでございまして、この点につきましては決算上からは黒字決算ということでもって非常に評価されるところであるというふうに思います。

3点目といたしまして、経費の節減でございしますけれども、これは全科目において経費の節減がなされておるわけでございまして、経費の節減という意味からは数字的にはこの点を評価いたしたいというふうに思っております。

2番目に、決算委員会の審査につきましては委員長報告であったとおり非常に努力されました審査がなされたようでございまして、この点は評価いたしたいと思います。特にこの株の問題について反対討論が今あったわけでございしますけれども、私はこの点につきましては今までにおきますところの

8年間の決算の中において、この点が隠ぺいされておりました、討論ができなかった。この点について私は重大な問題があったというふうに思います。しかしながら、7年度決算におきましては一般会計の中におきまして1億200万円、基金会計の中におきまして2億7,350万円が株の購入資金として充てられたということが指摘され、そしてそれによるところの含み損が出ておることが決算上明らかになったという点については、私はむしろこれは公になった、また議会の討論の間に付されたということにおきまして評価をいたしたいというふうに思うわけでございます。

そうした意味において、この7年度の決算についてはこういった具体的な問題が討論されまして、その措置の方法としては決算委員会において討論されまして、決算委員長の報告になされた点について、これを私は妥当というふうに思うわけでございまして、そういう意味におきまして賛成をいたしたいと思うわけでございます。

しかしながら、私はこの決算に当たりまして3点について要望、意見を申し上げておきたいというふうに思います。先ほど申し上げましたように、今回の決算につきましては当初予算に対しまして15億2,200万円の増額があったわけでございます。そして、支出におきましても当初予算よりも7億6,600万円の支出が出たということでございするけれども、その内容について考えなきゃならない点が私は幾つかあろうと思うわけでございます。それは支出において7億6,000万円の増があったわけでございするけれども、しかしながら繰越金が7億5,500万円あるということでございするから、したがってこれは帳消しになるということでございします。さらに、7年度の決算におきましては、財調への繰入金が7億7,512万円あるわけでございします。したがって、このことは15億何千万円の金が繰越金と財調繰入金によって支出されておるということでございします。

さらに、これを細かく分析しますと、税収入は64億でございします。当初予算に対して1億円のプラスでございするから、これはまあまあとするわけでございします。景気が回復しておりますし、国の税収入は上向きになっておることが言われてるわけでございまして、そういう中では交付税が

2億円のプラスになってるわけでございます。さらに、この15億円のプラスの大きな内容になっておりますのは、土地売却資金が12億当初予算より上回っておるということ、これによって決算が15億ふえておる、こういう内容になってるわけでございます。しかしながら、支出の面におきましては、繰越金が7億5,000万、財政調整資金の繰入金が7億7,000万円ということでございますから、15億何千万円の金がかうした状況で凍結されてしまっておる、7年度の予算の中に生かされなかったという点については、私は考えなきゃならない。したがって、非常に市の財政運営が消極的であると言わざるを得ない。硬直状態が脱し切れておらないという点については率直に8年度の予算運営の中では反省をして、こうした硬直状態を改善していただきたいというふうに思うのでございます。

それから、2番目に指摘しておきたいことは、今申し上げましたようにせっかくの予算を組みながら、経費節減ということでもって全般的な経費は節減されたけれども、内容的には事業が十分推進されたかどうかということについては若干の疑問を持つわけでございます。せっかく今回の場合15億円の財政調整基金の繰り入れ並びに繰越金を出したわけでございますから、これは館山の基幹産業であり、館山の経済力をつける基盤産業であるところの商工、観光、水産業の事業費に転換するならばもっと館山市の活性化につながったんじゃないか。そういう面では10億の金が死に金になったと言える面もあるわけでございまして、この点についてはせっかく経費節減し、そして土地を売却して15億からの金を浮かしたわけでございますから、財政調整基金に繰り入れたり、繰越金でもってそれをなくしてしまうということでなくて、現実的な景気の回復、さらには基盤産業の育成とやっぱし投機的に行うという措置がとられなければ私はならないと思うわけでございまして、こうした点については資金の活用という面で生きた予算運営ができるように8年度予算の中では十分考慮していただきたい、この点を要望する次第でございます。

3番目に、N T Tの問題でございしますけれども、18日の決算審査の一般討論の中で指摘しましたけれども、少なくとも8年度の決算年度においては

残高、現金、財産は年度別に明確にしなけりゃならないというふうに思います。今回その点が明確になっておらなかった、また明確にそれを公表しなかったことが、議会においても監査委員会においても株が購入されておったということが発見できなかった理由でございます。討論の中では、8年度の予算と年度の決算とが重複してるから、現金の残高としては合ってるけれども、7年度の残高がどこの銀行に幾ら、どこの公社債に幾らとか、そういうものが明確に出ないわけでございます。

したがいまして、少なくとも今回のNTTの不祥事を契機に、議会も監査委員会も審査の方法を改善しなきゃならないわけございまして、その改善しなきゃならない大前提がやはり決算の残高の仕分けがどういう仕分けになってるかということをやはり議会に対しても監査委員会に対しても公表できるようにしてもらわなければならないと思うわけでございます。これなくしては依然と同じようなことが再び繰り返されるということもあり得るわけでございますから、他の市町村においてはこういうこともやってないところもあるようでございます。だからいいというわけございせん。私が聞いた市町村においてはそういうことは当然やるべきで、なぜ館山は年度ごとにそういうものが明らかにされなかったんだという指摘もされてるわけでございます。その点については、今後8年度決算等当面の間は残高の内容を明らかにできるような報告をしてもらわなければ、7年度決算の状況においてはその残高がどのようになっておるかということについて、やはり株が入ってるかどうかということについては我々は知り得る状況にないわけでございますから、そういうこと知り得る状況に今後はしていただきたい。

7年度決算についてはやむを得ないといいたしましても、今後そういうことを要望いたしまして、私は決算委員長報告を了承するものでございますので、よろしく御討論のほどをお願い申し上げます。

◎議長（山中金治郎君） ほかに討論ございせんか。 — 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（山中金治郎君） これより採決いたします。

採決は分割して行います。

まず、認定第1号一般会計決算について、起立により採決をいたします。

本決算についての委員長の報告は認定であります。

本決算を委員長の報告どおり認定することに賛成の皆さんの起立を求めます。

（賛成者起立）

◎議長（山中金治郎君） 起立多数であります。よって、本決算は認定することに決しました。

次いで、認定第2号乃至認定第8号の各特別会計決算を一括して採決いたします。

各決算についての委員長報告は認定であります。

各決算を委員長の報告どおり認定することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（山中金治郎君） 御異議なしと認めます。よって、各決算はいずれも認定することに決しました。

議案の上程

◎議長（山中金治郎君） 日程第7、議案第70号館山市長、助役及び収入役の給料月額の特例に関する条例の制定についてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

（書記朗読）

◎議長（山中金治郎君） 朗読は終わりました。

議案の内容説明

◎議長（山中金治郎君） 議案の説明を求めます。

庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） 議案第70号館山市長、助役及び収入役の給料月額の

特例に関する条例の制定について、提案理由を御説明申し上げます。

元収入役によりますN T T株購入に係る問題により、市民の皆さんの市政に対する信頼を損ねましたことに対しまして三役として襟を正すため、本年10月の給料月額につきまして、市長にあっては100分の50に相当する額を、助役及び収入役にあっては100分の20に相当する額を減額する措置を講ずる条例を制定するものでございます。

よろしく御審議のほどお願い申し上げます。

◎議長（山中金治郎君） 説明は終わりました。

質 疑 応 答

◎議長（山中金治郎君） これより質疑を行います。

御質疑ありませんか。

神田さん。

◎20番（神田守隆君） お尋ねいたします。

今回の特別職の減額ということで、現在ただいまの市長の説明では市民に対する信頼を損ねて襟を正すというお話でありました。そこで、今回のこの給料減額条例の市長がここで正そうとしたその責任についてどういうふうに考えているのか、御説明をいただきたいと思うわけでございます。

というのは、この減額の条例で市長が負おうとする責任というのは、4億円余の損害の回復について失敗した、この責任をとろうとするものなのか、あるいはこれまで元収入役らによる虚偽の報告をうのみにしてきたということに対する責任を感じたということなのか、あるいは部下たる者の市民に対する要は不始末、そういう監督者としての責任に対するものなのか、いろんな考え方があろうかと思うわけであります。先ほどの御説明では、市民の市政に対する信頼を損なった責任というふうに受けとめたんですけれども、漠然としておりますので、どのような責任なのか、お聞かせをいただきたい。これが第1点です。

それから、第2点は、かつて前任の半澤市長が市の職員が公金横領事件を起こした問題でやはり処分というか、給与の減額といういわば処分をみずか

らにしたという事件がありました。このときは20%減額が4カ月ということだったかと思うんですが、実質的にこのときには市財政には公金横領の事実はありませんでしたが、いわゆる損害という形で実害が市財政に発生したということにはならなかったわけです。しかしながら、こういう管理監督上の責任ということをとってそれなりのみずからに対する処分をしたいきさつがあるということなんですが、こういう半澤市長のときの処分、給与の減額条例と今回の給与の減額条例とやり方がちょっと大分違うわけですが、先ほどの責任との関係でその辺は配慮されておるのかどうか、どのような検討がされたのかということです。

それから、3つ目に、市長さんに特にお伺いしたいと思うんですが、政治家の責任という問題についてどういうふうにお考えになるかということなんです。これは半澤市長が退任をなされるときに退任のあいさつの中で述べられた言葉でありますけれども、マックス・ウェーバーの言葉を引用いたしまして、政治家の責任という問題については自分がこうあるべきだということで行った政治行動が結果として全く正反対の結果になったとしても、政治家としてはその結果をも含んでみずからの責任を負うんだ、こういうことが政治家としての責任なんだということを述べられておるんですけれども、私は政治家の責任という問題を考える場合に大変示唆に富んだ内容であるというふうに理解しておるんですが、今回の問題をめぐって市長さんは損害の回復ということを経済に考えられたということは理解しますが、しかし結果としてそれができなかったということについて政治家としての責任という問題をどのように考えられるのか、その3つの点についてお聞かせをいただきたいなと思います。

◎議長（山中金治郎君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） ただいまの御質問でございますけれども、今回のこの襟を正すという意味は、基本的な問題としまして公務員であるべき市の職員が公金を使って株を購入する、ここの不祥事でございます。あってはならぬことだし、やってはならぬことだし、地方公務員法の初歩的段階で、しかもこれを時の幹部が行った。これに対する公務員としてのあるべき姿をきち

っとしなきゃいけない、けじめをつけなければいけない、こういうところにスタートいたします。

そして、この大きな損害を出しましたことに対して、損害回復を図るべきその手だてを講じておったんでございますけれども、御案内のとおりあのような大赦令、復権令というようなものが出てまいりました。そこで法的には無理だ、こうなりました。まことに残念ながらその面の回復はできない。これはこれからの行政によって、仕事によって、その内容によって市民の納得を得ていくしかないということでございます。

もう一つの問題のこれが長年、表に出なかったということに関しましては、これはこういうことがあってはいかぬ、スタートがおかしいし、それを覆い隠しておるといようなこの態度は極めてよろしくない。このことにつきましては、これから法的措置を十分に検討してまいります。

そういうような意味から市長としての、あるいは助役としての、収入役としての、三役としての、最高幹部としての態度をはっきりさせなきゃいけないということで、襟を正すという言葉を使つての今回の措置でございます。

◎議長（山中金治郎君） 総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） ただいまの御質問の中の過去に起きました公金横領事件との関係でございます。それについて配慮したかということでございますが、昭和60年にただいまお話がありましたような公金の横領事件というものが発生したわけでございます。そのときの処分でございますけれども、市長、それから助役の処分でございます。市長に関しましては、給料月額100分の10につきまして昭和60年7月から4カ月間にわたりまして減額するということとしたわけでございます。これは今回の条例とは性格の違うものでございます。もちろん条例案の検討に当たって私どもの方から市長の方にこういう事例もあるということでお示しはいたしましたけれども、性格の違うものでございますので、その辺がどのように配慮されたかということになりますと明確なお答えはできないわけでございますが、当然配慮されたものと考えております。

◎議長（山中金治郎君） 神田さん。

◎20番（神田守隆君） 確認をしておきたいわけなんですけれども、今回の減額の条例で市長が責任を明らかにしようというのは、やはり今の御答弁ですと執行部と——直接今の執行部がこの株購入に携わっていたわけでは全くないですから、そういう立場からすると個人的には何でおれたちが処分されなきゃいけないんだという思いもわからないわけじゃないんですけれども、しかし姿勢を示すといいますか、市としての行政の姿勢を示すことに通して市職員にこの公金に対する態度の問題だとか、公務員としてのあり方の問題とか、こういうものを示していくんだというような意味での処分だというふうな、どうもそういうニュアンスを非常に強く感じたわけで、ということは私が指摘した損害回復に失敗したという責任とかあるいは虚偽の報告をうのみにしていたというか、こういうことに対する責任とかいうことではなくて、部下たるものの不始末に対する監督上の責任といいますか、私の言い方とすれば。そういうニュアンスが、また今後に向けてもそういうニュアンスが非常に強いなという感じがするわけなんです。

そうしますと、私はこのことによって市長の責任あるいは執行部の責任全体が終わりになったとはとても思えないわけなんです。この処分の問題というのはこれは一定のものではあります。やはりこういうことをきちんとするということについては意味のあることだと思います。その辺については私も了解をいたします。しかしながら、まだまだこの問題というのは市民の信頼の回復という大問題をいわば緒にまだついたとも言えないというぐらいの段階だというふうに私も認識するわけで、そういう点では市長の責任の問題という、あるいは執行部の責任という問題について考えた場合には、これで終わったという考え方はとてもとれないと思うんですけれども、その点についてはどういうふうにお考えでありますか。

◎議長（山中金治郎君） 助役。

◎助役（小幡清之君） 御指摘のとおり、これで責任が終わったというふうには考えておりません。当然のことながら今後の行財政運営の中でいかにさらに効果的な運営を図っていくか、そしてあとこの問題に関しての法的な措置のとれるものについては、これは今検討を進めてるところでございます、

御指摘のありました虚偽公文書作成、これらについては法に照らした厳正な措置をとっていくというふうに考えております。

◎議長（山中金治郎君） 三上さん。

◎3番（三上英男君） このNTT問題につきましては、異例と思われるように「だん暖たてやま」に一部始終を公表したわけではありますが、これによってまた新たな疑問が市民の間に出てきているということも事実であります。監査報告を見ますと、確かに執行部の言うようにこうであったからこうだと理路整然と説明はされておりますが、しかし疑問だらけのところ、疑問が随所にあるわけでありまして、これの説明なくして市民にわかりましたと納得させるにはちょっとまだ不十分なところがあるんじゃないでしょうか。市民は、損害賠償をすべてしろということまでは言ってないと思います。ただ、はっきりしろ、こんなうやむやで過ごしてしまったら議会にも責任がある、議員は一体何やってるんだということがもういろんなところから声が上がってきておるわけです。私らはこれでもう済んだというように言いましたら、やっぱりおまえらもその仲間かと言われかねないところであります。今度議員発議で出したこの問題の中にも裁判とか告訴とかそういったことは1つも入っておりません。これでは——発議は可決されるでしょうけれども、全く議員そのものの役割は済んでないと考えております。もうお金云々じゃなくて、はっきりすることに執行部は全力を注いでもらいたいと考えるものであります。

以上、終わります。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木さん。

◎6番（鈴木順子君） 再度ちょっと確認をしたいんですが、今回のこの議案なんですけれども、先ほどの神田議員とのやりとりの中でいま一度わからないというのは、やはり減額の根拠というのがやはりきちんと示されない、やっぱり提案するからにはその根拠というものがきちんと言えないといけないうと思うんです。その辺のことを再度もう一度はっきりとお聞かせを願いたいということ。

それともう一つ、これはとり方によってはとりあえず今回はこれで処分す

るけれども、今後についてはまた別だよということの解釈でよろしいのかどうなのか、その辺が1つ。

あと先ほどの助役の発言の中にも偽造公文書問題についてのお考えはお聞かせ願いましたが、私は今回のこの問題あらゆる手を市が尽くしているかという点で市民が非常に怒ってるんじゃないかというふうに思うんです。手を尽くしていないんじゃないか、その姿が見えないというところに1つには怒りがあるんじゃないか。市長、この場でも憤りを感じてるということを発言されました。私に言わせれば、憤りを感じているのはあなたではなく市民の方が憤りを感じておるわけです。その辺の認識を本当に踏まえていらっしゃるのかということを私は再度本当に投げかけたいというふうに思います。

そして、行財政改革をしていくんだということもおっしゃってますが、こういったことがどういうふうに具体的にされてくのかという筋道が出されないでこういう処分についての減額についての問題がぼんと出されてくるということは、私は非常に問題だというふうに思っております。そこで、行財政改革をどうしようとしているのか、具体的にお考えが既にあると思います。お聞かせを願いたいと思います。

そして、二度と起こさないためのチェック、このための体制——監査の体制なんかもそうです。そういった点についてどのようにしていこうとしているのか、しっかりとこの場で指針を示していただきたい。その点についての御質問をしたいと思います。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） ただいまの御質問の第1点目、減額の根拠ということでございますが、先ほど市長の提案理由にもございましたように、市民の信頼を損ねた、今後に向かって市民に姿勢を正すということでこの条例を御提案申し上げたということでございます。

それから、2点目のこの条例の提出によって今回の問題についてはとりあえずの処理であって、今後は別かということでございますが、今回の問題に関しまして市三役が襟を正すためにということで御提案申し上げまして、今後というのがどのような意味合いかちょっとよくわかりませんが、先

ほど助役がお話ししましたように、今後の対応につきましては虚偽公文書作成というような点も含めて現在検討を進めているところでございます。

それから、市はあらゆる手段を尽くしたのかという御質問でございます。本会議でもお答えいたしましたとおり、あらゆる可能性を検討し、また法律の専門家等とも協議いたしまして監査報告を了解するという結論に達したものでございます。

それから、行財政改革を進めていく今後の対応の主要なポイントといたしまして行財政改革を進めていくその筋道についてはということでございますが、新行政改革大綱に基づきました各種の施策、行財政改革の施策をより一層推進することによりましてその実績を上げてまいりたいというふうに考えております。

それから、再発防止の体制でございますが、監査も含めてということでございます。チェック体制の確立等現在もう既に進めているところでございます。さらに検討を重ねましてこのようなことが二度と起こらないような監査体制の整備に努めてまいりたい、そのように考えております。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木さん。

◎6番（鈴木順子君） 私がお聞きしたのは、減額の根拠というのは、なぜ市長が100分の50なのか、助役、収入役が100分の20なのかということであります。それを聞きたいんであります。

それと、あと処分についてとりあえずという私の問いかけに対しましての御答弁なんです、私は今後に向けてまた処分ということがあり得るのかということをお聞きしています。いいですか。

それともう一つ、行財政改革なんです、行財政改革というのよく言われるんですけども、やはり市民あるいは職員に支障があるような行財政改革を行ってもらっては困るわけで、その辺のことはきちんとお考えをいただきながらやっていただきたいというふうに思います。

それと、監査なんですけれども、進めてるというふうな若干のお話がありましたが、どうやって、それどういうことなのか、具体的にお聞かせを願いたいというふうに思います。

◎議長（山中金治郎君） 総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） まず、減額の根拠を取り違えまして大変失礼いたしました。100分の50、100分の20はどのような根拠で出されてきた数字であろうかということでございますが、この点につきまして一定のルールのようなものは実際はないわけございまして、新聞報道等で示されております他の市町村等の事例、そういったもの、それから先ほどのお話にもございましたような市における各種処分の事例等を参考といたしまして市長において決定したものでございます。

それから、次に2点目の処分の問題でございますけれども、まずとりあえずの処分をしておいて今後またさらに処分ということがあり得るのかというお話でございますけれども、三役の将来に向かっての処分を現在条例で御提案申し上げてるということでございます。

それから、行財政改革につきましてでございますけれども、当然のことながら経費の節減でありますとか、組織の簡素化、そういったものを進めます。その過程において市民サービスの低下を来すとか、そういったことは絶対あってはならないことでございますので、そういったことにつきましては十分配慮しながら行財政改革を進めてまいりたいというふうに考えております。

それから、再発防止策でございますけれども、具体的にそれでは何をやってきているのかということでございますが、監査も含めてでございますけれども、残高の確認とそれぞれ財政課あるいは監査事務局の方で詳細なチェックをして、全体を常に把握しておくというようなことを中心に改めたところでございます。

◎議長（山中金治郎君） 他に御質疑ありませんか。 — 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

◎議長（山中金治郎君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎議長(山中金治郎君) 御異議なしと認めます。よって、本案については委員会の付託を省略することに決しました。

討 論

◎議長(山中金治郎君) これより討論を行います。

討論ありませんか。

鈴木さん。

◎6番(鈴木順子君) 自席でよろしいですか。

◎議長(山中金治郎君) はい。

◎6番(鈴木順子君) 先ほどからお聞きをしたわけなんですが、私はこの議案第70号につきまして、反対の討論をいたしたいというふうに思います。

先ほどからの質問の中でどうもはっきりとしない。今後に向けた処分どうなるんですかということについても、今時点で提案してるというふうな答弁のとどまり方。そういったことなどから、私はこれは今回限りというふうに受けとめざるを得ないというふうに思います。私は、この議案なんですが、処分については当然されるものであるというふうには考えております。しかしながら、今時点での処分については反対であるという立場で一言申し上げたいと思います。

先ほど来から申しておりますように、私は市としてできる限りの手を尽くしているかどうかという点非常に不満であります。そして、基本的には自分たちが、いや、あるいはかつてのいろんな多くの人たちがかかわってきってしまったこの件についての問題ではあるけれども、市の最高責任者としてみずから処分をするんだという姿勢については大変結構なことだとは思いますが、やはりそういうものを打ち出すときにはしっかりと今後に向けての方針をきちんと出せる状況で行ってほしいというふうに思います。

そして、処分という — 例えば先ほど助役の方の御答弁にありましたけれども、偽造公文書についての問題についても検討していくというふうなことをこの場でおっしゃっております。そういったことの報道がされた時点、そ

れでもいいんじゃないか。まずそれを先にすべきではないかというふうに思います。

私は、この間多くの市民から本当にさまざまな意見を聞いてまいりました。そして、この館山市役所の職員の方々、こういった方々の声を聞くにつれ、市民にとっては市の職員全員が今本当に信じられないというような状況の中で日々過ごしているわけです。市長さん首かしげてらっしゃるけれども、本当です、これは。市の例えば窓口業務であるとか市民と接触をする立場の方々、市の市税を預かる収納する職員の方々、こういった方々がどれほど今苦勞されているか、どんな思いをされているかということをあえてこの場で言っておきたいと思います。私はそういうことを考えると、それこそ市長みずからが収納に回ったらいじゃないか、そのぐらいの気持ちであります。そういった今後の市税の影響も十分に考えられることをここに及んできちんと指針を示されないということについては非常に不満であります。

したがって、処分については当然されるべきものではあります、今の時点での処分ということについては反対をしたいと思います。この議案第70号について私は反対をいたします。

◎議長（山中金治郎君） ほかにございませんか。—— 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（山中金治郎君） これより採決いたします。

採決は起立によって行います。

本案を原案どおり可決することに賛成の皆さんの起立を求めます。

（賛成者起立）

◎議長（山中金治郎君） 起立多数であります。

よって、本案は原案どおり可決されました。

議案の上程

◎議長（山中金治郎君） 日程第8、議案第71号館山市名誉市民の称号を贈

ることについてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

(書記朗読)

◎議長(山中金治郎君) 朗読は終わりました。

議案の内容説明

◎議長(山中金治郎君) 議案の説明を求めます。

庄司市長。

(市長庄司 厚君登壇)

◎市長(庄司 厚君) 議案第71号館山市名誉市民の称号を贈ることについて、提案理由を御説明申し上げます。

館山市名誉市民条例の趣旨に従いまして、館山市の発展に大きく貢献されました故吉田勇治郎氏に館山市名誉市民選考委員会の答申に基づきまして館山市名誉市民の称号を贈りたく、市議会の同意を求めようとするものでございます。

御賛同を賜りますようお願い申し上げます。

◎議長(山中金治郎君) 説明は終わりました。

質疑応答

◎議長(山中金治郎君) これより質疑を行います。

御質疑ありませんか。— 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

◎議長(山中金治郎君) お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略いたしたいと思えます。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎議長(山中金治郎君) 御異議なしと認めます。よって、本案は委員会の

付託を省略することに決しました。

討 論

◎議長（山中金治郎君） これより討論を行います。

討論はありませんか。 — 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（山中金治郎君） これより採決いたします。

本案については同意することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（山中金治郎君） 御異議なしと認めます。よって、本案は同意することに決しました。

議案の上程

◎議長（山中金治郎君） 日程第9、議案第72号人権擁護委員候補者の推薦についてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

（書記朗読）

◎議長（山中金治郎君） 朗読は終わりました。

議案の内容説明

◎議長（山中金治郎君） 議案の説明を求めます。

庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） 議案第72号人権擁護委員候補者の推薦について、提案理由を御説明申し上げます。

館山市の人権擁護委員の定数について法務大臣より1名の増員が承認されたことに伴いまして、人権擁護委員法第6条第3項の規定により、候補者の

推薦を求められておりますので、武田金市郎さんを適任と考え、御推薦申し上げたいと存じます。

よろしく願い申し上げます。

◎議長（山中金治郎君） 説明は終わりました。

質 疑 応 答

◎議長（山中金治郎君） これより質疑を行います。

御質疑ありませんか。 — 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

◎議長（山中金治郎君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（山中金治郎君） 御異議なしと認めます。よって、本案については委員会の付託を省略することに決しました。

討 論

◎議長（山中金治郎君） これより討論を行います。

討論はありませんか。 — 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（山中金治郎君） これより採決いたします。

本案を原案どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（山中金治郎君） 御異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決されました。

議案の上程

◎議長（山中金治郎君） 日程第10、議案第73号館山市固定資産評価審査委員会委員の選任についてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

（書記朗読）

◎議長（山中金治郎君） 朗読は終わりました。

議案の内容説明

◎議長（山中金治郎君） 議案の説明を求めます。

庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） 議案第73号館山市固定資産評価審査委員会委員の選任について、提案理由を御説明申し上げます。

館山市固定資産評価審査委員会委員中、石渡邦夫さんが平成8年10月5日をもって任期が満了いたしますが、引き続き石渡邦夫さんを適任と考え、選任いたしたいと存じます。

御賛同を賜りますようお願い申し上げます。

◎議長（山中金治郎君） 説明は終わりました。

質疑応答

◎議長（山中金治郎君） これより質疑を行います。

御質疑ありませんか。 — 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

◎議長（山中金治郎君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎議長(山中金治郎君) 御異議なしと認めます。よって、本案については委員会の付託を省略することに決しました。

討 論

◎議長(山中金治郎君) これより討論を行います。

討論はありませんか。— 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長(山中金治郎君) これより採決いたします。

本案については同意することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎議長(山中金治郎君) 御異議なしと認めます。よって、本案は同意することに決しました。

議案の上程

◎議長(山中金治郎君) 日程第11、議案第74号館山市教育委員会委員の任命についてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

(書記朗読)

◎議長(山中金治郎君) 朗読は終わりました。

議案の内容説明

◎議長(山中金治郎君) 議案の説明を求めます。

庄司市長。

(市長庄司 厚君登壇)

◎市長(庄司 厚君) 議案第74号館山市教育委員会委員の任命について、提案理由を御説明申し上げます。

館山市教育委員会委員中、滝口喜雄さん、田村悦智子さんが平成8年9月30日をもって任期が満了いたしますが、引き続き滝口喜雄さん、田村悦智子さんを適任と考え、任命いたしたいと存じます。

御賛同を賜りますようお願い申し上げます。

◎議長（山中金治郎君） 説明は終わりました。

質 疑 応 答

◎議長（山中金治郎君） これより質疑を行います。

御質疑ありませんか。 — 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

◎議長（山中金治郎君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（山中金治郎君） 御異議なしと認めます。よって、本案については委員会の付託を省略することに決しました。

討 論

◎議長（山中金治郎君） これより討論を行います。

討論はありませんか。 — 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（山中金治郎君） これより採決いたします。

本案については同意することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（山中金治郎君） 御異議なしと認めます。よって、本案は同意する

ことに決しました。

議案の上程

◎議長（山中金治郎君） 日程第12、発議案第5号及び発議案第6号の各議案を一括して議題といたします。

議案の朗読は省略します。

議案の内容説明

◎議長（山中金治郎君） 議案の説明を求めます。

島田さん、お願いします。

（9番議員島田 保君登壇）

◎9番（島田 保君） ただいま議題となりました発議案第5号及び発議案第6号について、提案理由を御説明申し上げます。

まず、発議案第5号新たな「食料・農業・農村基本法」の制定を求める意見書についてであります。本委員会に送付され、審査の結果了承できるものと決しました。陳情書の趣旨を体しまして関係機関に要望しようとするものであります。

次に、発議案第6号道路財源確保に関する意見書についてであります。道路網の整備は本市にとって極めて重要な課題であります。今回県からの要請もあり、道路財源の確保について関係機関に要望しようとするものであります。

それぞれお手元に配付のとおり、7名の賛成者を得まして提出した次第であります。

満場の御賛同を賜りますようお願いいたしまして、提案理由の説明といたします。

◎議長（山中金治郎君） 説明は終わりました。

質疑応答

◎議長（山中金治郎君） これより質疑を行います。

御質疑ありませんか。 — 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

◎議長（山中金治郎君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（山中金治郎君） 御異議なしと認めます。よって、本案については委員会の付託を省略することに決しました。

討 論

◎議長（山中金治郎君） これより討論を行います。

討論はありませんか。 — 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（山中金治郎君） これより採決いたします。

採決は一括して行います。

各議案を原案どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（山中金治郎君） 御異議なしと認めます。よって、各議案は原案どおり可決されました。

議案の上程

◎議長（山中金治郎君） 日程第13、発議案第7号株購入問題に関する決議についてを議題といたします。

議案の朗読は省略いたします。

議案の内容説明

◎議長（山中金治郎君） 議案の説明を求めます。

岩村さん。

（17番議員岩村勝弘君登壇）

◎17番（岩村勝弘君） ただいま議題となりました発議案第7号株購入問題に関する決議について、提案理由を説明いたします。

N T T株購入問題につきましては、長年にわたって事実が明らかにされず多額の損失が生じたことは極めて遺憾であります。この問題については、6月議会、今議会においても種々議論してきたところでありますが、この際議会としての意思を明らかにする必要があると考え、お手元に配付のとおり8名の賛成者を得て本案を提出いたしました次第でございます。

皆様の御賛同を賜りますようお願いいたしまして、提案理由の説明といたします。

◎議長（山中金治郎君） 説明は終わりました。

質 疑 応 答

◎議長（山中金治郎君） これより質疑を行います。

御質疑ありませんか。―― 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

◎議長（山中金治郎君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略いたしたいと思えます。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（山中金治郎君） 御異議なしと認めます。よって、本案については委員会の付託を省略することに決しました。

討 論

◎議長（山中金治郎君） これより討論を行います。

討論はありませんか。—— 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（山中金治郎君） これより採決いたします。

本案を原案どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（山中金治郎君） 御異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決されました。

議案の上程

◎議長（山中金治郎君） 日程第14、発議案第8号消費税率5%引き上げに反対する意見書についてを議題といたします。

議案の朗読は省略いたします。

議案の内容説明

◎議長（山中金治郎君） 議案の説明を求めます。

脇田さん。

（13番議員脇田安保君登壇）

◎13番（脇田安保君） 消費税率5%引き上げに反対する意見書の提案理由を説明いたします。

この消費税の問題につきましては、国民がひとしく重大な関心を寄せているものであります。消費者にとっても、経営者にとっても、低所得者にとっても、それぞれ毎日の生活の中で折に触れてこの消費税を認識する機会が多く、主婦らは買い物をするたびに消費税の値上げをひしと身に感ずることでありましょう。

今回の税率の値上げは国会においては十分な論議をすることもなく、また国民に何らの意見も聞かぬまま一方的な決定であると思えるので、なおさら

国民の反発は大きいものと考えられます。特にこの決定は、消費税が低所得者や年金生活者等に与える影響を緩和するために、逆進性対策として生鮮食品の軽減税率導入等の措置が講じられておらず、政府の金利政策と相まってこれらの弱い立場の人々には深刻な打撃を与えずにはおかないのであります。さらに、ようやく立ち直りかけた景気に対しても冷水と打撃を浴びせることになりましょう。国民や長い不景気の中で、リストラによる失業や雇用不安に直面し、実質所得の減少に見舞われるなど極めて厳しい生活を余儀なくされているのであります。このような状況下における消費税の引き上げは国民生活に深刻な悪影響を与えざるを得ないと思います。そこで、政府に対して安易な消費税率5%への引き上げを速やかに撤回するよう4名の賛成者で提案した次第であります。

満場の皆様の御賛同を賜りますようお願い申し上げまして、提案理由の説明といたします。

◎議長（山中金治郎君） 説明は終わりました。

質 疑 応 答

◎議長（山中金治郎君） これより質疑を行います。

御質疑ありませんか。――御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

◎議長（山中金治郎君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略いたしたいと思えます。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（山中金治郎君） 御異議なしと認めます。よって、本案については委員会の付託を省略することに決しました。

討 論

◎議長（山中金治郎君） これより討論を行います。

討論はありませんか。 — 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（山中金治郎君） これより採決いたします。

採決は起立によって行います。

本案を原案どおり可決することに賛成の皆さんの起立を求めます。

（賛成者起立）

◎議長（山中金治郎君） 起立多数であります。よって、本案は原案どおり可決されました。

閉 会 午後零時 05 分

◎議長（山中金治郎君） 以上で本定例会に付議されました案件は議了いたしました。

よって、これにて第3回市議会定例会を閉会いたします。

◎本日の会議に付した事件

- 1 議案第57号乃至議案第74号
- 1 認定第1号乃至認定第8号
- 1 請願第6号、請願第9号乃至請願第11号
- 1 継続審査について（請願第7号、請願第8号）
- 1 発議案第5号乃至発議案第8号
- 1 日程の追加・発議案第9号及び発議案第10号

地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

館山市議会議長

館山市議会議員

館山市議会議員